（1）　年間購読料10,000円（税別）
平成22年／2010年
7月20日【火曜日】
第2006号

発行所 ㈱ビジネス通信社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町20-7
電　話03(3662)2728
ＦＡＸ03(3662)1943

ビジネス・マシンNEWS

造る・売る＝メーカーとディーラーそのかけ橋に＝

週刊・火曜日発行
（5週目は休刊）
昭和40年3月24日
第三種郵便物認可

郵便振替口座
00120-5-56565
取引銀行
みずほ銀行横山町支店
三菱東京UFJ銀行大伝馬町支店
三井住友銀行銀座支店

1番人気は小型製紙装置

デュプロがエコオフィス展参考出品

ISOT／OFMEXなどリード社主催展示会が七月七日から九日まで、東京ビッグサイトで合計一千五百一社が出展し盛況に開催された。事務機関連で一番人気となったのが、エコオフィスEXPOにデュプロが参考出品した小型製紙装置だ。出力機器の省エネ性能が年々向上し、最近はプラスチックやトナーのバイオマス化も注目されているが、さらに今後は用紙の再利用も焦点になりそうだ。

業界関係も注目の的

小型実現し真っ白に再生

デュプロの小型製紙装置「RECOT・iO（レコティオ）PM－1000」は、オフィスの使用済みコピー用紙を、A4サイズのまっ白な一〇〇%再生紙に甦らせるもので、新しい用紙を購入するよりCO2排出量を約六五%削減可能としている。機密文書の処理を外部委託せずに企業内で行え、用紙を繊維段階まで分解するため、外部への情報流出を防ぐことができる。生産能力は毎時三百六十枚。

エコオフィスEXPOに出展し注目されたデュプロのブース

同社では、来場者の意見なども参考に、さらに装置の完成度を高め、来年四月からの販売開始を予定している。価格は一千五百万円程度。

こうした小型リサイクル製紙装置は、今までも開発されてきたが、再生紙にトナーが残って事務用途に適さない、装置が大型で高額過ぎるなどのネックがあったため、実質的には製品化されていなかった。

デュプロでは、今回の小型製紙装置を七年間かけて開発したという。従来にない小型で白色度が極めて高い用紙に再生できるため、事前に開発発表されたこともあって、同社ブースは同業他社も含めて非常に高い関心を集めた。

同社では、保守サービスは原則的に直接自社で行う方針だが、系列販社による直販以外の販売については今後検討していく考えだ。

用紙再利用も焦点に

「レコティオPM－1000」は、世界初の「インク（トナー）除去機能」によって、用紙を水でほぐした上でトナー成分と紙の繊維に分別し、トナーを除去して再生紙にリサイクルする。

①使用済み定型用紙をセットし、内部のシュレッダでクロスカット／またはクロスカットのシュレッダ紙を投入する、②紙を繊維段階まで分解する、③トナー成分を除去する、④ベルトに繊維を流し紙をすく、⑤ヒーターで水分を乾燥する、⑥シート状の再生紙をA4サイズに断裁する、という仕組み。

再生の対象となる使用済み用紙は、トナー方式の複写機やプリンタで出力したもので、デジタル印刷機などインク使用の用紙は再生できない。また、ストレートカットでシュレッダ処理された用紙も直接は投入できない。

使用済み用紙は九割程度が再生され、約十回繰り返し再生できる。また、新しい使用済み用紙を五割程度混ぜれば、半永久的にリサイクル可能という。装置の小型化を図ったため、ホチキス止めやファクス用紙等の投入はできない。本体は給紙部・ウェット部・ドライ部で構成。それぞれ任意の位置にL型／C型などに設置できる。大きさはストレートライン設置の場合で幅四七七×奥行一〇〇×高さ一七五㌢を実現している。

専用装置で消すことができる「消せるトナーeーブルー」を提供してきた東芝テックは、先に「瞬時に消せるトナー」をパイロットと共同開発する、と発表している。

複写機・複合機／プリンタは、本体の省エネ性能が年々向上し、再生プラスチック部品やバイオマスプラスチックの採用に加え、トナーもバイオマス原材料の導入が始まっている。今後はさらに、環境負荷をより低減できる再生紙の開発も課題となりそうだ。

（4面に紙上展）